



発行
自衛隊福岡病院
春日市小倉東1丁目
61番地
TEL 092-581-0431
ホームページ



自衛隊福岡病院長兼
春日駐屯地司令
陸将補 川口雅久

す。皆様におかれましては、健やか
に新春をお迎えのこととお慶び申
上げます。謹んで新年のご挨拶を申
し上げますとともに、平素からの多
大なるご支援・ご協力に深く感謝申
し上げます。

旧年は、新型コロナウイルス感染症のいわゆる第六波対応に始まり、そのピークと時を合わせるように、二月二十四日、ロシアがウクライナに侵攻し、世界に衝撃を与え、未だに終わりの見通せない状況です。その影響は欧州に留まらず、わが国周辺の安全保障環境をも著しく不安定化させています。中国軍の著しい増強と力による現状変更の試みは、特に台湾周辺でその激しさを増し、北朝鮮は「ミサイルや変則軌道等の多種多様なミサイルをかつけない高頻度で発射し、地域 の安定を著しく脅かしている」のは周知のとおりです。

このように、急速に緊迫の度を高めるわが国の安全保障環境に対応すべく、年末にはいわゆる安全保障関連三文書が改定されました。西部方面隊は引き続きあらゆる事態に迅速に対応すべく、より一層の質・量両面で発展・深化が図られます。衛生分野でも、自衛隊福岡病院は西部方面隊の中核型基幹病院と位置付けられており、『衛生機能の改革』に

含まれる南西の医療体制の中核として、その任務は更に重大なものとなっています。

このような中、病院にとって令和四年は、ここ数年、新型コロナウイルス感染症対応を中心に据えざるを得なかった各種任務・業務を、取捨選択しつつ如何にして以前の状態に戻し、且つより効率的に発展させていくかをテーマとする一年でした。発熱外来、陽性者の入院加療、部隊等を含めたPCR検査、職域接種、そして、自衛隊大規模接種センター支援等に対し病院職員は整齐と力を発揮するとともに、地域の救急輪番等を含めた通常診療等も確実に遂行してくれました。病院職員の努力に深く敬意を表する次第です。一方、西部方面隊としても、各種訓練等が復元し始め、各種行事等も規模を小さくする等の処置を講じつつ実施され始めました。これに連動し、当院でも平素の診療や各種支援を以前とほぼ同等に回復させるとともに、小規模ながら開院六十七周年記念行事も実施させていただきました。更に、災害対処訓練や戦傷治療集合訓練（〇〇訓練）等も再開・実施しました。

病院にとっては、平素から経験を積み、識能を磨くことが、特技者の差出しや後送患者受入れといった事態対処能力向上に直結します。そのため、部内外の医療機関等との研修・協力体制構築は欠かせません。また、隊員の健康管理を的確に支援することで、人的戦闘力を維持・増進することも重要な任務の一つです。新病院建替えも、これらと密接に関連したもとして推進していかなくてはなりません。

重苦しい雰囲気が社会全体を覆っていた一年でしたが、年末に近づき、サッカーW杯での日本代表の清々しい活躍が、漂っている暗然た

春陽会会長
牟田 直

新年あけましておめでとうござい
ます。春陽会の牟田でございます。
皆さんは新しい年をどのようにお過
ごしでしょうか。

昨年もコロナ対策に追われる一年
でした。第七波を経験し過去最高の
感染者数でした。九月以降、感染者
数は徐々に減少していましたが、十
月に入り感染者数は増加に転じ現在
に至っています。第八波の到来と言
わざるを得ません。人との距離を保



春陽会会長
牟田 直

るムドを払拭する強力なカンフル剤に、なったように思います。ただ、カンフル剤は気付け薬のようなものであり、持続性や安定性は期待できません。そこから先の継続的な発展は、当事者が自らの任務に思いを致し、協力し合いつつも自力で改善・強化していかなくてはなりません。

ち、密を避け、夏の暑い時期でのマスク着用など、いままでと違った日中常を経験し、急速にまた大きく世の中が変わったことを実感しました。このような状況の中で、私たちはこの新たな日常に対応するべく意識の変化を求められており、新型コロナウイルス感染症が収束しても以前の生活に戻ることはないと感じざるを得ません。

さて昨年の大きな出来事としてロシアのウクライナ侵攻がありま
す。ウクライナでは、民間人を含む犠
牲者が増え、深い悲しみを覚えま
す。亡くなられた方々に心から哀悼
の意を表するものです。ロシアによ
る侵略は国際法の深刻な違反であ
り、強く非難されるべきものであり
ます。侵攻開始から十一月近く経ち
ますが、情勢はますます深刻化して
おり、大変憂慮すべき事態と考えま
す。ロシアの「力による一方的な現
状の変更」は、国際秩序全体を乱す
ものであり、欧州に留まらない問題
と認識すべきです。②をはじめとし
る国際社会が固く結束し、対応する
ことが肝要です。

ロシアのウクライナ侵攻は、遠い
出来事のように感じるかもしれませんが
、東アジアでも同様のことが起
こらないとも限りません。三期目を
迎える習近平政権は、祖国統一をス
ローガンに抱えています。中国の台
湾侵攻が現実性を増してきたと思わ
ざるを得ません。台湾有事の際は日
本に何も無いということはありません
。また北朝鮮の度重なるミサイル発
射は、東アジアの平和と安定を著し
く損ないかねない行為です。この様
な変化が起こっています。ダメー
ジコントロールサージェリー(DSC)の
導入、第一線から後方の病院までの
シームレスな治療後送、前線への衛
生補給など検討課題は山積みと思ひ
ます。福岡病院は、西方の中核病院
としてこの数々の問題に立ち向かっ
ていかなければなりません。OBとし
て頼もしく思っております。

最先任上級曹長
瀧 良道

明けましておめでとうござい
ます。二〇二三年は卯（ウサギ）年と
なります。

長女が通う春日小学校ではウサギを飼育していて、家から出た野菜くずを持って行き食べさせる事を楽しんで人に話します。

そうが分泌するホルモンの中に幸せホルモンと呼ばれるオキシトシンという物質があります。調べると脳下垂体後葉から分泌され、人に幸福感・ストレスの軽減・記憶力の向上などの作用を与えるそうです。

このホルモンを分泌させるのには①動物との触れ合い②人との交流③スキンシップ④やわらかいものに触れる⑤人に親切にする、などの行動で放出され幸福感などの作用をもたらすそうです。そう考えると娘はウサギに餌を与えるだけでも多くの条件をクリアし幸福感を感じているのでしょう。

自分はまだ娘達（七歳・三歳）しかハグられていないようなので、時々ハグをしてオキシトシンを補充し幸福感を得ています。皆様も何かで少しでも幸福感を得てみてはいかがでしょうか。

二〇二三年が幸せな年でありますように。

戦傷治療集合訓練（DCS訓練）

十月五日及び十一月十三日の二日、鎮西FTXの場を活用し、十文字原演習場（前段）及び奄美駐屯地（後段）において、第八師団を主体とした戦傷治療集合訓練（DCS訓練）を実施しました。

自衛隊福岡病院からDCS班（医官・看護官）を派遣し、第八方支援連隊衛生隊と連携したDCS班の行動及び師団収容所での連携要領等を演練し、戦傷治療に関する識能向上を図りました。

前段訓練では、副院長（吉積一佐）が現地で実演指導し、座学及び模擬手術を用いて、DCSにおける救命のための止血の重要性を教育しました。また、外科医官として各部隊からの人員で編組されたDCS班に参加し、戦傷治療能力の向上を図りました。

併せて、現地における米軍との共同訓練により、相互に訓練を研修する機会を得て、日米連携強化も図りました。

DCS訓練では、ハイブリッドシミュレーター及びシミュレーション人体模型等を活用し、手術等を実際の現示し、DCS及び連接する周術期管理（術前・術後）を焦点に訓練しました。



WEBによる情報共有

副院長による実演

開院記念行事

病院は、十月三十一日、開院六十七周年を記念し、病院勤務者の融和団結と士気の高揚を図るとともに、春陽会（OB）及び協力者との信頼の醸成に努める為、自衛隊福岡病院開院六十七周年記念行事を挙行了しました。

記念式典には、新型コロナウイルス感染症への感染防護の観点から、春陽会を代表し牟田会長以下三名と感謝状を贈呈させていただいた方々のみにご臨席を賜り、実施しました。



記念式典の様子

来賓者との記念撮影

心突然死対策講習会

十二月九日及び十日の二日間、防衛医科大学校からの講師（石神二佐）派遣を受け、令和四年度心突然死対策講習会を実施しました。

十八個部隊から、衛生科隊員五十三名（医官、看護官、救急救命士等）が参加し、心突然死に関する救急救命処置の識能を修得させ、救命率の向上を図りました。



指導部によるデモ

熱心に取り組む受講生

陸幕優秀隊員招待行事

この度、診療技術部の小浦准尉（前最先任上級曹長）が陸幕優秀隊員に選ばれ、十一月十六日、顕彰授与式にご令室と共に列席されました。授与式は明治記念館で行われ、その後陸上幕僚長ご夫妻との記念撮影や夕食会が催されました。

授与式の感想をお聞きすると「終始、緊張状態ではありませんでした。顕彰状は光栄の極みであり、妻の喜ぶ姿を見ることが一番の幸せでした」と笑顔で語られました。



顕彰状授与式

陸上幕僚長との記念撮影

准看護戴帽式

准看護学院（学院長・山元二佐）は、十一月七日、西部方面総監部医務官、同防衛部教育班長のご臨席を賜り、病院長の立会の下、戴帽式を挙行了しました。

第四十七期学生三十三名は教務班長からナースキャップを戴き、誓いの詞を宣誓、部内外病院等での臨地実習が開始され准看護師へと続く新たな一歩を踏み出しました。



病院長等との記念撮影

ナースキャップを受ける学生

部外者航空機体験搭乗

十二月三日に目達原駐屯地において、西部方面ヘリコプター隊の支援を受け、部外関係者等の航空機体験搭乗を実施しました。



UH-1J まえでの記念撮影

人事往来

十二月一日付で松本二佐が自衛隊中央病院より第二外科部長として赴任されました。



第二外科部長 松本 2 佐

駐屯地朝礼での紹介

定年退官者の紹介

《十月二十日付》
三等陸佐 前 岳 葉 子



見送られる前岳 3 佐

看護部長等との記念撮影